

うた ひつじの詩だより

2007, 1, 1
毎月発行 No.70
この便りはご注文の品と
いっしょにお届けします

新年あけましておめでとうございます。

いのししの年ですね。ご近所にいのししの子、うりぼうとそっくりの小犬が来た時は、あまりに可愛くて、「飼うならこの子じゃなくてはだめ」とまで思い込んだ私ですが、結局、その後わが家に来た小犬は、なぜか茅ヶ崎駅で出会ってしまった、へんてこりんな熊の子のような犬でした。その子もへんてこりんなまま大きくなって1年たちました。思うようにならないものだなと首を傾げつつ、その子にうーんと時間も奪われて、それでも何ということでしょう、仕事に疲れた夜中、眠そうなこの子に向かって逆に「遊ぼう」とか無理を言っている自分を発見します。ほんとうに天からの授かり物には文句のつけようがありません。

昨年末、雑誌リンカランさんから、「母から子へ、心を伝えて」のコンセプトで、取材のお話があった時は、それがひつじの詩舎そのものの心だったので、うれしくお引き受けしました。ミュージシャンのbirdさんが佐々木のアトリエに来られるのも日常にない出来事で、ちょっとはしゃいだ私たちでした。届けられた雑誌のその記事は、私の拙い話も、通り一遍でなく受け止め、しかもやさしく書いてくださっていて、ライター村崎さんの力にびっくりしました。その中の「手仕事はサバイバル、ひとりりで生きていく力、自分で考える力になる」は、こんな気持ちで話しました。大人の仕事、手仕事で言えば、それへの尊敬は大人が自分のために使ってくれた時間の記憶と共に、子どもの心に植えられ育っていく、大人になって、その心の記憶が、生き方を紡いでいく力となり、また、次のこども達に伝わって力となる、と。

その連鎖は めんどりが先かたまごが先かのような話で、当たり前のことと言えばそうなのですが、私にはその当たり前が、不思議な奇蹟の重なりのように感じられます。けれども考えてみれば、大人たちの手仕事への本当の原動力となるものは現実には、楽しいなつかしい記憶ばかりではなくて そう！目の前のこども達の存在そのものですよ。いま天から授かって地球という星で巡り回っているこども達に、私たち大人は お礼にすこやかな記憶を届けられたらと願います。

本年もどうぞよろしく願い申し上げます。

いるといいな もうひとりのわたし

お母さんは おいしいものを作ってくれる。
お父さんは 広い胸に抱きしめてくれる。
おとなの人は やさしくて 何でもできる。大好き。
でも わたしはわたし 世界でひとり。
わたしは小さいけれど 毎日 たくさんのこと
考えている。いろいろなこと感じている。
もうひとりのわたしがいたら・・・とか。
そうしたら・・・きのうみた不思議なゆめのこと、
あたらしいふくのぼたんのいいにおいなこと
知らない犬にさわられた時のことや
引っ越してしまったおともだちのこと・・・
なーんでも話してみたいな。それに わたしも
やさしくお世話してあげたいの お人形さんを。
わたしが してもらっているように。ね、お母さん。



2007年1月

佐々木奈々子

ぱたぼんの仕事展 ウォルドルフ人形 ~遊びの風景~ スウェーデンひつじの詩舎講師 “ぱたぼん” の作品展

- 1月16日(火) 10:30~12:00 盛岡市総合福祉センター3F 盛岡市若園町2-2
TEL:019-626-6043 担当:森田智子
- 1月26日(金)~29日(月) つみきや 福岡市南区西長住2-29-20
TEL:092-512-6095 担当:原田保子
- 2月8日(木)~13日(火) アートスペース201 札幌市中央区南2西1-7-8 山口中央ビル6F
TEL:011-251-1418 担当:長内洋子・村本泰江
- 2月16日(金)~18日(日) セキスイギャラリー 仙台市青葉区本町2-16-10
NBF 仙台本町ビル 担当:清野トモ子・阿部美知子
- 2月19日(月)~21日(水) ルヴィーブル 福山市西桜町1-5-17
TEL:0849-25-3587 担当:安田いず実
- 2月25日(日)~26日(月) Anty 北九州市小倉北区清水3-2-18
TEL:093-963-8033 担当:岩淵志温

ぱたぼん通信

伝え続けたい 風土に根ざした文化と母の心

私のふるさととは、東北の田舎町です。結婚するまで年越しの夜だけは、欠かさず実家で過ごしました。

新年の七福神の神様をお迎えする為に、神棚を綺麗に掃除をするのは、子供達の仕事。お庭のほこらに祀る氏神様のお掃除は、寒くて大変でした。父は、お米を収穫した時のわらでしめ縄をない、部屋全体をしめ縄で飾ります。

母は、神様をお迎えするお膳を準備します。そこには、女の神様にお供えする紅やおしろいなどをはじめ、江戸時代から伝わる、家独特のしきたりがありました。

お餅つきのお手伝いや、神棚のお掃除、漆のお膳を拭く作業など、当時はとても辛くつまらないものでした。寒い座敷で年越しのお膳を正座して食べるのも、好きではありませんでした。

年が明け、氏子になっている神社に、収穫したお米を納めに詣でました。長い間手を合わせている母に、「何をお願いしたの?」とたずねると、「今年も無事過ぎてありがとうございます。願い事が叶えられるように、どうか私に力をお貸し下さいってお願いしたの。」と、母は言いました。「神様にお願い事を叶えてもらうんじゃなくて、幸せは、自分が努力して掴むものなんだよ。」子供の頃に聞いた母の言葉です。

母の言葉と共に、一つ一つの作業を通して、自然に感謝する心や、物への敬いなどを教えてもらいました。親になった今、とても懐かしく、又感謝しています。そして私も、私なりに子供達に伝えて行きたいと思っています。
中野 久仁子(大阪市在住)

昨年2月に亡くなった詩人、茨木のり子の詩に“自分の感性ぐらい自分で守れ、ばかものよ”という一節があります。亡くなったことを報じる記事の中で目にして以来、度々この一節が頭の中に浮かんできます。

今、6年生の子どもの約6割が死んでもすぐに生き返ってやりなおすことができると信じているという驚くべき調査結果があるそうです。かけがえのない人や動物の死を目の当たりにする前に、ゲーム機の中で終了・リセット・スタートで命を操るような経験を繰り返してしまったことが、少なくとも原因のひとつではないかと思われてなりません。わたしたち大人は、自分の感性を守ることはもちろんですが、それ以上に、子どもたちの感性が健やかに育っていくために何をしなければならぬか、危機感をもって真剣に考えるべき時にきていると思います。
編集担当:佐藤治子

♥スウェーデンひつじの詩舎♥
スペース ベシのあたらしいふく
〒244-0001 横浜市戸塚区鳥が丘15-2
TEL/FAX 045-881-6900,6965
佐々木のアトリエ TEL/FAX 045-811-6708
〒244-0001 横浜市戸塚区鳥が丘15-2
TEL/FAX 045-881-6900,6965

スウェーデンひつじの詩舎のホームページ <http://www.s-hitsuji.co.jp/>